

授業科目名	生活	教員名	坂倉 真衣	免許・資格との関係	小学校教諭	選択必修
					幼稚園教諭	選択必修
授業形態	講義・演習	担当形態	単独		保育士	
科目番号	KY0201	配当年次	1年後期	卒業要件	こども音楽療育士	
単位数	2単位				小幼コース	選択必修
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園） 教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項（幼稚園） 教科に関する専門的事項（小学校） ・生活					
一般目標	(1)生活科の新設の背景、改訂の趣旨、ポイントや目標、内容等を理解する。 (2)生活科の改善の基本方針、要点を学ぶとともに生活科の特質や目指すものを理解する。 (3)生活科の指導計画の作成や学習指導に必要な基礎的な考え方、内容を理解する。					
到達目標	(1)生活科の新設の背景、改訂の趣旨、ポイントや目標、内容等を理解している。 (2)生活科の改訂の基本方針、要点や生活科の特質や目指すものを理解している。 (3)生活科の計画の作成や学習指導に必要な基礎的な考え方を理解している。					
授業の概要	生活科は、具体的な体験や活動を通して「自立への基礎」を育成する教科として、平成元年に新設された。本授業では、新設の背景、趣旨について学習指導要領解説等により理解する。 次に、平成29年改訂での生活科の改訂の基本方針をもとに、生活科の特質やめざすものについて理解を深める。さらに、具体的実践事例を参考にしながら講義、演習等を通して生活科の指導計画の作成や学習指導に必要な基礎的な考え方や内容を学んでいく。 アクティブラーニングとして、振り返り、レポートなどを取り入れる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学科のディプロマ・ポリシーに掲げる「5.教育実践力を身につけている。」「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」ことを育成する科目として配置している。					
授業計画	第1回：オリエンテーション、生活科の意義 <ul style="list-style-type: none"> 生活科の授業の趣旨、進め方、学び方等を理解する。 生活科の教科目標についてまとめ、目標の要素、趣旨を理解する。（目標(1)） 第2回：生活科の現状、課題 <ul style="list-style-type: none"> 生活科の原点、生活科の現状、近年の改訂の趣旨をまとめる。生活科が抱える課題について理解する。（目標(1), (2)） 第3回：内容構成の考え方① <ul style="list-style-type: none"> 内容構成の具体的な視点についてまとめる。（目標(2)） 内容を構成する具体的な学習活動や学習についてまとめる。（目標(2)） 第4回：内容構成の考え方②「内容の構成要素と階層性」 <ul style="list-style-type: none"> 各内容の構成要素についてまとめる。（目標(2)） 内容の階層性についてまとめる。（目標(2)） 生活科の内容全体構成についてまとめる。（目標(2)） 第5回：生活科の内容「学校、家庭及び地域の生活に関する内容理解」① <ul style="list-style-type: none"> 子どもの頃に住んでいた場所、遊び場周辺の絵地図作りを通して、幼児期・児童期に特有の学校、地域に対する認識について理解する。「がっこうたんけん」「まちたんけん」などの「学校及び地域の生活」に関する単元の指導において必要な「アンカーポイント」の考え方を身につける。（目標(3)） 第6回：生活科の内容「学校、家庭及び地域の生活に関する内容理解」② <ul style="list-style-type: none"> 幼児期・児童期の発達課程を考慮しながら、「がっこうたんけん」を行い、アンカーポイントとなり得る場所について考察し、グループ発表を行う。（目標(3)） 第7回：生活科の内容「学校、家庭及び地域の生活に関する内容理解」③					

	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回、6回を振り返り、「がっこうたんけん」「まちたんけん」の指導課程についてディスカッションを行い、授業を構成する上での配慮点、要点、取り扱いの留意点等についてまとめる。(目標(1), (2), (3)) 第8回：生活科の内容「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容理解」① <ul style="list-style-type: none"> ・SOS子どもの村JAPAN、こうのとりのゆりかご、院内学級などの福祉、医療施設で過ごす子どもたちのことなどを調べ、「さまざまな家庭の形」についてまとめ、発表を行う。単元「家族のなかにわたしがいるよ」など「家庭」や「身近な人々と関わる活動」に関する単元の指導において配慮すべき事項について身につける。(目標(3)) 第9回：生活科の内容「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容理解」② <ul style="list-style-type: none"> ・身近な草花を使った遊びについて実際に体験し、「くさばなやむしをさがそう」などの「身近な自然と関わる活動」に関する単元の指導において必要な草花に関する知識や考え方を身につける。(目標(3)) 第10回：生活科の内容「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容理解」③ <ul style="list-style-type: none"> ・身近な物を使ったおもちゃ作りについて実際に体験し、「せかいでひとつの私のおもちゃ」などの「身近な物と関わる活動」に関する単元の指導において必要な素材や道具に関する知識や「アフォーダンス」(ギブソン)などの考え方を身につける。(目標(3)) 第11回：生活科の内容「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容理解」④ <ul style="list-style-type: none"> ・公共物や公共施設に対する幼児・児童の社会的認識について検討し、ジョン・デューイの「発見学習」や、ブルーナーの提起する2つの思考様式等の「みんなでつうがくろをあるこう」などの「身近な社会に関わる活動」単元の指導において必要な知識や考え方を身につける。(目標(3)) 第12回：生活科の内容「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容理解」⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・第8回～11回を振り返り、「家族のなかにわたしがいるよ」「くさばなやむしをさがそう」「せかいでひとつの私のおもちゃ」「みんなでつうがくろをあるこう」の指導課程についてディスカッションを行い、授業を構成する上での配慮点、要点、取り扱いの留意点等についてまとめる。(目標(1), (2), (3)) 第13回：生活科の内容「自分自身の生活や成長に関する内容理解」① <ul style="list-style-type: none"> ・ユリー・プロフェンブレナー(1978)の「生態学的システム」やエリクソンの発達課題について理解し、「これまでのわたし これからのわたし」などの「自分自身の生活や成長に関する活動」単元の指導において必要な知識や考え方を身につける。(目標(3)) 第14回：生活科の内容「自分自身の生活や成長に関する内容理解」② <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃の自分の成長について振り返り、自分自身に宛てた手紙を作成する体験を通して、「これまでのわたし これからのわたし」の指導課程についてディスカッションを行い、授業を構成する上での配慮点、要点、取り扱いの留意点等についてまとめる。(目標(1), (2), (3)) 第15回：講義まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの講義全体を振り返り、今後の生活科教育法での指導案作成・模擬授業の実施に向けて「指導計画の作成と内容の取扱い」「指導計画の作成と学習指導」の概要についてまとめる。(目標(3))
<p>学生に対する評価</p>	<p>授業時に課す演習レポートの内容40%、定期試験の成績60%で評価する。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
<p>時間外の学習について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習：毎回講義後に、次回の講義内容を伝え、予習課題を与えるので、しっかり解いて不明な点を明確にしておくこと。</p> <p>事後学習：講義内容に関するレポートやグループでの課題を課すので、次回までにまとめておくこと。</p>
<p>テキスト</p>	<p>文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編』</p>

	『わくわくせいかつ 上・下』 啓林館
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	『幼稚園教育要領（平成29年告示）』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）』 『保育所保育指針（平成29年告示）』 『小学校新学習指導要領ポイント総整理』（東洋館出版社編集部編） 上記以外は、授業の展開に合わせて紹介する。
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	生活科は、保育園・幼稚園と小学校とでの学習をつなぎ、その後の小学校生活をする上で基盤となる児童の自立を育むとても重要な教科です。さまざまな事象との具体的な関わりを通して、中学年以降の理科、社会につながる気づきを育む教科としての役割もあります。この講義では、将来、児童の気づきの質を高められる授業を展開できるよう、まずはみなさん自身が自然、社会、物、人々など様々な事物と実際に関わりながらたくさんの気づきをして欲しいと思っています。地域の素材を大切にした授業を展開していくので、大学周辺の自然・施設等についても把握しておいてください。
オフィスアワー	毎週水曜日 9:00～12:00